一年生

―ある小学教師の記録―

岩波写真文庫 143

岩波写真文庫
143

一 年 生

―ある小学教師の記録―

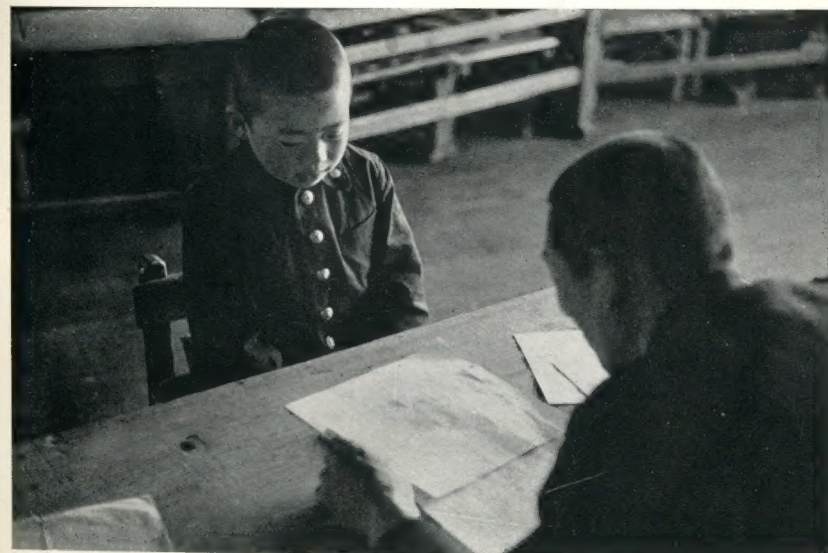
写真 熊谷元一
編集 岩波書店編集部
　　 岩波映画製作所

まだ何ものにも染まない生き生きとした一年生の姿は見ていて楽しいが、カメラで捉えることは容易でない。それは技術だけの問題ではなく、先生の深い愛情が伴ってなし得ることである。この本はそういう本である。

（学校は長野県下伊那郡会地村。説明文のうち細線で囲んだ部分は教育心理学の立場から瀬川良夫教授に書いていただいた。）

目　次

うちの子は

「この絵はなあーに」「おんま」.「お父さんなにしてるの」「うちで仕事しとるの」. なにを聞いてももじもじして答えない子，はきはきと答える子，見当ちがいの答をする子.

定価100円 1955年3月25日 第1刷発行 1955年5月1日 第2刷発行 発行者 岩波雄二郎 印刷者 米屋勇 印刷所 東京都港区芝浦2ノ1 半七写真印刷工業株式会社 製本所 永井製本所 発行所 東京都千代田区神田一ッ橋2ノ3 株式会社岩波書店

社会への旅立ち

↑私の級のこどもと私．学校の裏の丘で．こどもの1人にシャッターをきらせた．

四月の学校は明るい。ことに一年生を受持つとなると、不安でもあるが希望で胸のふくらむ思いがする。どんなこどもがくるだろうか。いたずらっ子、あまえっ子、すぐべそをかく子、先生先生とすがりつく子、目の前にまだ見ないこどもたちの顔が浮んでは消える。この前、一年生を受持った時の失敗を反省して、ああしたらいいか、こうしてみたらなどと学級経営の計画が頭のなかを去来する。小学校の教員としてもっとも夢の多い時だ。入学式の当日がくる。式場へ入るこどもたちのうれしいような不安そうな表情。学校への第一歩。こどもたちよすこやかに伸びよ。

上級生の拍手に迎えられて

入学の日

真新しい服、帽子、ランドセル、こどももつきそう親もうれしそうだ。教科書が渡される。絵本は見たことがあっても「学校の本」となるとこども心にもまた感じがちがうのだろう、早速開いて見ている。母親もよりそって見入る。あちこちで、うちの子はと話し合う親たち、ここまで育て上げてきたよろこびと、集団生活のなかに送りこむ不安もあるのだろう。式場では校長のお祝いのことばと上級生の歓迎のことば。うたをうたい担任の紹介があって式が終る。教室で、先生との初顔合せ、机もきまってこれから長い学校生活がはじまる。「さあ、名前をよぶから元気で答えなさい」「ハイ」と第一声。ききとれないくらい小さな声もある。担任の挨拶が終って記念撮影。こどもたちは興奮し、夢中でこの日を過す。

さくらの咲く頃

こどもたちは一週間もすると学校にも級友にもなれて落着いてくる。校庭のさくらも咲く。今日はさくらの花の下へつれ出して、さくらの花について話合う。今までぼんやり見ていたさくらも、先生からよく見なさいといわれると「きれいだなあ」と感嘆する。教室へ帰って「さくら」と黒板に書く。「さ、く、ら、さくらだ、さくらだ、ぼくたちに

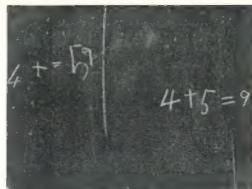
もかかせて」とさわぎだす。紙を渡すと、黒板を見ながら一劃ごとに書く。字にならない子もいる。みんなよく書けたとほめてやると大よろこび。人の前で話をする第一歩として自己紹介をさせる。立って名前をいうだけだが、この一言にもこどもの性格がでる。放課になると、当分はこどもを送ってゆく。学校ではあまり話をしないこどもも、外へ出ると、先生先生と話しかけてきたりして、楽しい。

数あそび

「ぼく、五〇までかんじょうできるぞ」「わたしは一〇〇までよ」。こどもたちはすぐかんじょうをしたがる。ところが数字のほうは読めないし、書けない子もいる。今日は工作をかねて数字の旗つくり。家から小さい棒を持ってこさせ、紙にクレオンで1から5までの数字を書いて旗にする。でき上ると、「3の旗を上げてごらん」と旗をひろわせる。「先生この旗でかけっこしまい〔しない〕」という子。「そうだ、外でかけっこしよう。先生もこんな旗つくった」とあらかじめ用意した旗を見せる。「ワー、ワー」と大よろこび。わずかな距離を五人ずつ走らせて一等から五等までの旗をやる。上級生も応援に出てくる。花屋さんごっこや計数器あそびもして、あそびのなかで数を教えこむ。計数器のジャンケンならべでは勝っても負けても「バンザーイ」。

さあ，いくら

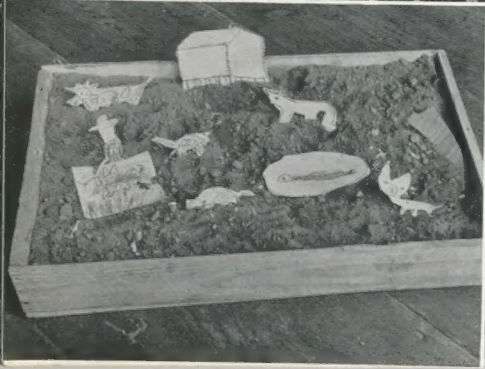
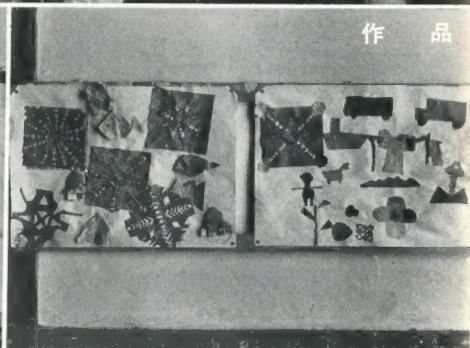
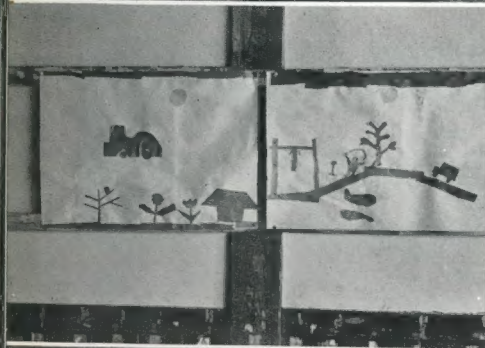
むずかしいに（ね）

わからんの？

ぼつぼつ10以下の計算練習をはじめる．レンゲの花など使って「5本と3本はいくら」ときくと全部のこどもがわかるが，5＋3＝？となると仲々のみこめない．そこで「5を頭へ入れて」と頭を左手でたたかせ，右手の指で 6，7，8 とやらせる．ある時，頭を机の下につっこんでいるこどもがいたのでよく見たら足の指まで使って計算していた．指を使う子は当分つづくがいつしかやめてしまう．筆算ははじめて習うこどもたちに大きな抵抗だ．とんでもない書き方をしたりする．高い低いはせいくらべなどで覚えさせる．計算練習には5＋3＝8といったカードを作らせて，2人で答えっこをさせたら良く覚えた．

指でかぞえる

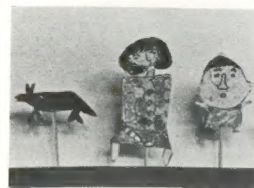
5をあたまに入れて—

8と6をたすと

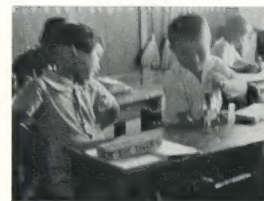
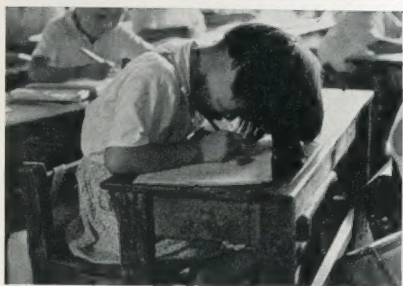
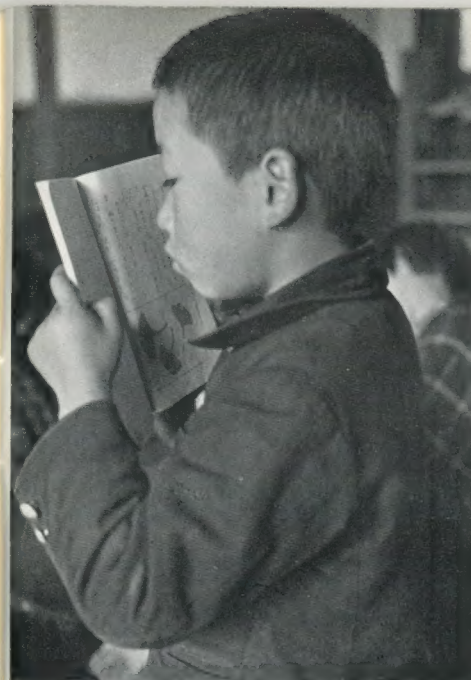
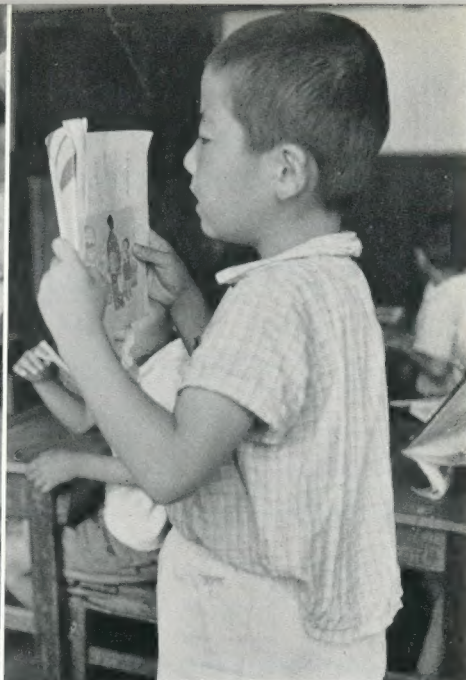
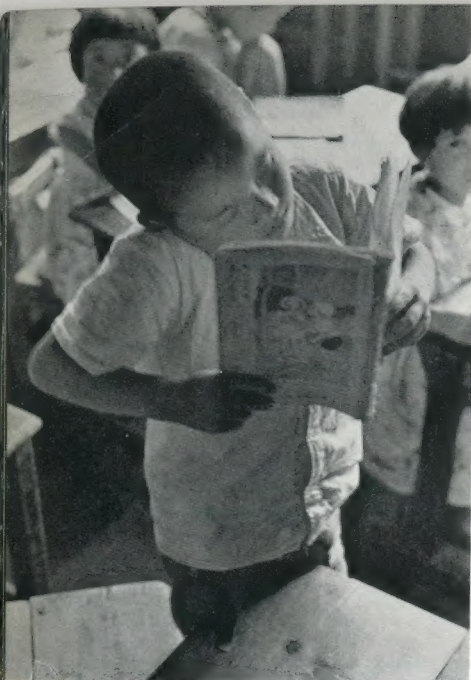
グループ工作

作　品

絵　と　工　作

こどもたちは絵を描き工作することがとても好きだ．絵にはクレオンだけでなく墨，ガッシュなどを使わせる．絵にはそのこどもの性格がよく表われる．大胆に表現する子，コツコツ小さくまとめる子，なにを書いたかはっきりわからないこどもなど千差万別だ．筆のもち方は下の方をもつ子が多い．２人ならべて書くと上手だといわれる子(左)の絵に他の子の絵が似てしまう．気の弱い子に多い．5,6人で共同工作をさせるとリーダーになるこどもができ，そのこどもがしっかりしていると作品をうまくまとめていく．しかし，これがすぎると，傍観するこどもがでてくる．リーダーがないと仕事がまちまちで，同人数でも作品がだいぶちがう．

絵と工作

魚を切りぬく

２人でかく

筆でかく

教室のなかのこどもたち

国語の本を立ってよませる。本の持ち方や姿勢がそれぞれちがう。一般にはじめの頃は本を目から離して読めない。もっと離して読みなさいと注意しても、読んでいるうちに次第に目に近づけてしまうこどもが多い。これではとても文をつづけて読むことはできない。は、な、が、さ、い、て、と一字ずつひろい読みをする。首を曲げるくせのこどももいる。腰の掛け方も、きちんと深くかける子と端の方にほんのわずかしかかけていない子もある。きちんと腰かけないこどもは文字などを書く時に背を曲げてノートに目を近づける。女の子の場合、髪がノートにかぶさって手もとを暗くするのもいつも気になる。このようにいろいろのこどもがいるので、こどもたちを机にならばせるのにも、時にはずいぶん苦労する。気の弱いこどもには特に注意をする。二人で一緒に積木などをさせると、二人で仲よくする組、男の子だけが一人でやってしまう組などまちまちである。たまには女の子のやるのを男の子が見ているようなことも起る。

本を忘れて

おばあさん子

叱られて

本を破いて

こどもたちは自分ではよくしゃべるが，他のこどもが話すことにはあまり注意しない．１人だけに本を読ます時も，はじめは一寸注意するがすぐあきる．そんな折に窓外に注意を引くものが通ったりすると総立ちになってしまう．元来がこんな雰囲気であるのに，いろいろな性格のこどもがいて，なかなかなじまないから，はじめて一年生の教室を見る人は驚くだろう．入学当初は１人で学校へこられない子もいる．本など忘れてくると，級のものを貸しても泣いて読まない子もいる．隣の子の本を破って両方とも泣きだしたりする．

そそう

そろそろあきた

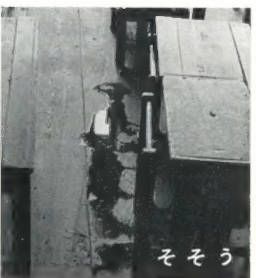
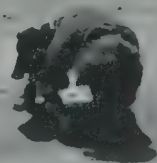
宣伝カーがきたぞ

すねる子の扱いにはいつもこまる．だき上げて連れてくると足をバタバタさせて泣くがやがてケロリとする．机から足を出したAも男児とならべたら直り，１年後には女児でも平気になった．

すねる　要求が満たされない場合、一年生たちは行動のなかでそのことを表現する。机から足を出す男児は、恐らく女児に対して強い反撥を感じるように育ったのであろう。その感情をむき出しに相手の身体からできるだけ遠ざかろうと無理な姿勢をわざとしているのだろう。教室でもガンとして帽子を脱がない別の男児は、伸ばして得意だった頭髪を無理に坊主刈りにされ

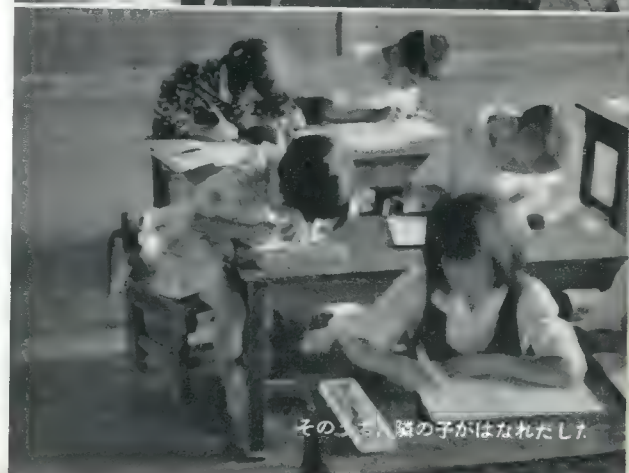
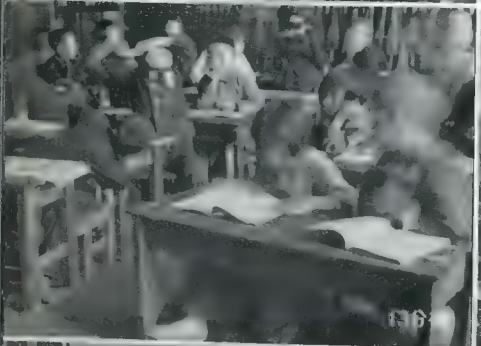
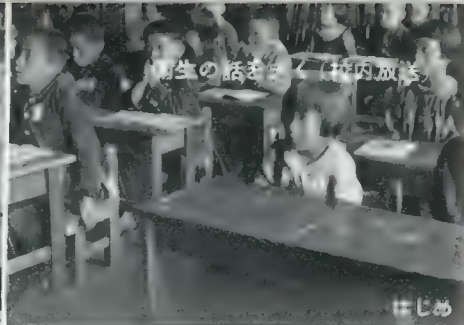
隣の女の子とはなれて坐る子がいた

相手が嫌なのかと前へ出したが

その[illegible]隣の子がはなれだした

帽子をかぶる

髪をのばしていたHが坊主刈りにしてきた．授業中でも帽子をとらない．そのままにしていたら誰かが帽子をとってしまった．はやされて一時顔をふせたがその後は帽子をかぶらなかった．

たのだろう。級友からはやされるだろうと思い、帽子をかぶることで大人たちへの精一杯の抵抗を示しているともいえよう。廊下で一人自らを慰めている子も、すねて教室に入らない子も、それぞれのなんらかの要求がいれられない不満がある。このような要求不満の表情を単にわがままや強情とだけ割り切らずに、その因ってくる事情を考え、その取扱い方を工夫したい。

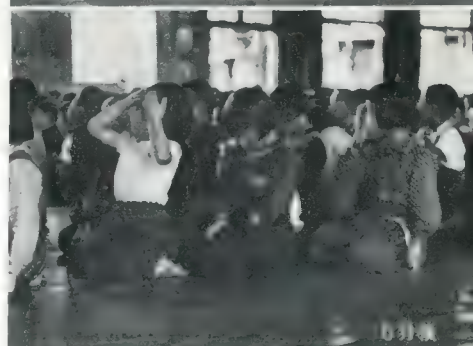
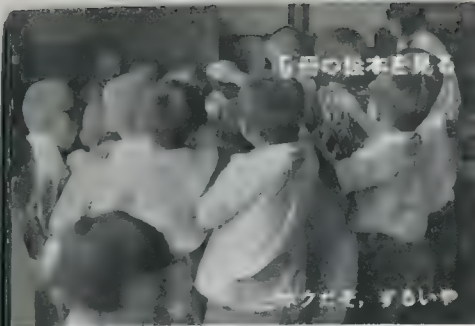
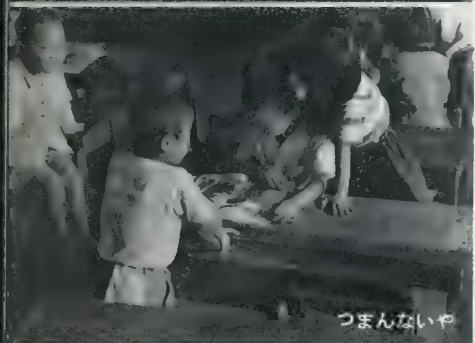
すねる

教室へ入らない子

こどもは「おはなし」にすぐあきる．特に一年生ではこの傾向が強い．話好きの校長が赤彦の歌について全校の生徒に話したときと，校内放送で校医が歯の衛生の話をしたとき，一年生の姿をカメラで追ってみた．

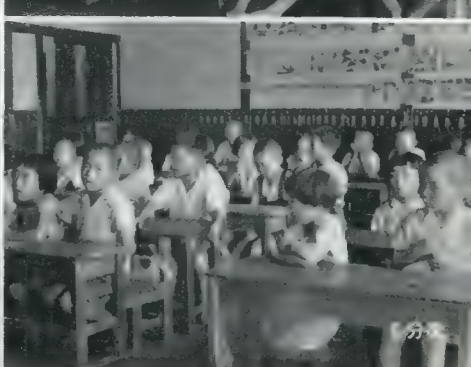
興味と飽き　ききとる側の理解の力をこえて、むずかしすぎる「おはなし」は、どんなにためになる話でもひざが痛かったという経験しか残らない。一年生から六年生まで一緒にして長い「おはなし」をすることはむずかしいことだ。むずかしすぎても、やさしすぎても、興味はつづかない。一年生のこどもたちにむずかしい話を聞かせた結果は写真のような状況だが、知的教育に熱心な親たちも時々これと同じようなことをやってはいないだろうか。その時こどもの知りたがることを求められた程度に答え、あとは別の機会に待つのがよいようである。

ボクにも見せて

つまんないや

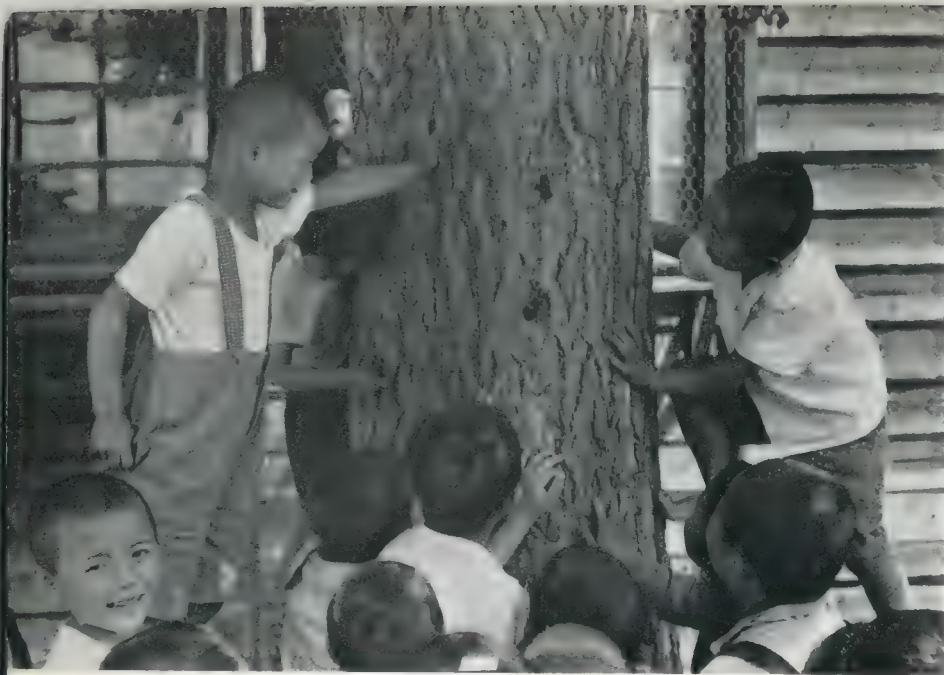
ゆっくり見よう

みんなで見なさい

校内放送で特に一年生向けの音楽と童話を放送してもらった．こどもたちは前とはうってかわってとても静かだった．また，ある日机の上に5冊の絵本をのせ，みんなに勝手にとらせてみた．左はそのときの記録．

興味と個人差　机の上の本にはどんな絵や話がのっているのかな？「未知」への期待で胸ふくらませ、机に向って突進する。明かに第一次の興味は起っている。これが持続されるかどうかは、それぞれの本の内容と、一人一人の子が求めている知識の方面との関係できまることだ。本を数冊あてがってみて、読み耽らなかったとしても、それでこの子は知的な方面の興味がないときめないで、それぞれの子の興味の筋をいろんな場面で観察してやりたい。写真の場合は興味の個人差に独占した子の強い自己主張が加わったものだ。

おもしろいな

こどものけんかは，なんでもないことからよく起る．ふざけていたかと思うと，けんかになっていることも多い．偶発的なのでそのてんまつを写真にとることはあまりできなかった．それでも，できるだけ追ってみたら，こどもを理解する上にも役立った．

けんか　こどものけんかは大人のそれと必ずしも同じでない。他人の本を見る時は、「ちょっと見せて」、「貸して」などといわないと相手が怒るとか、遊びのやり方をちゃんときめておかないと遊びがこわれるとか、いろいろな社会的ルールを、じつは、けんかを通して覚えていく。はじめは同級生一対一の間でやっているが、二学期ともなれば、数人で他の教室にも遠征にいく。世なれぬ一年生たちは、交友範囲を拡げる場合にも、時にけんかの形式をとって、じつは「仲よくしよう」の挨拶にでかける程の無骨者なり照れ屋である。けんかの形式のなかにあるいろいろな意味をあたたかく汲みとってやることが、こどもに対する愛情の一つであろう。

……にいく

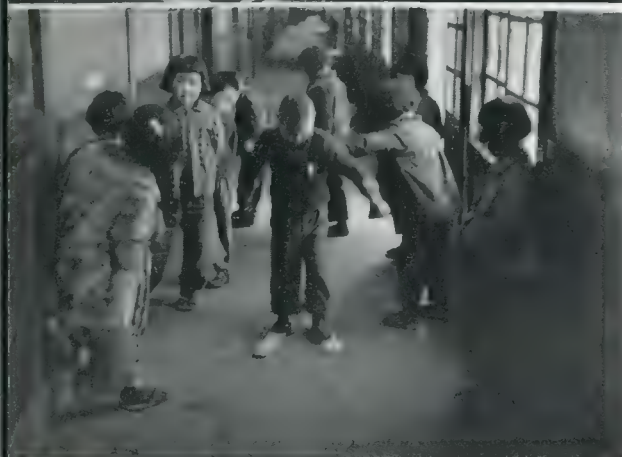
止める子がでる．

教室にでてきたネズミの子をつかまえるのも，青大将を平気でぶらさげてみせるのも，カブト虫に競走させてみんなに見せるのも，いつもきまったこどもたちだ．私のクラスのガキ大将も，この写真からわかると思う．

クラスの英雄　一年生のどの級にもたいてい幾人かの英雄がいる。いつもいろいろな珍らしい品物を持っているとか、メンコ、角力、けんかなどに強いとか、犬や蛇なんかこわがらないとか、こういう種類の〃特殊技能者〃たちが一般に一年生の英雄になりやすい。その他、学校放送に出たとか学芸会の花形役になったとかいう子は、その行事の興奮がつづく間、一時的だが英雄視される。困るのは、勇気や腕力で英雄になったこどもが、ともすれば、弱いものいじめなどの脱線におちいり勝ちなことだ。気をつけてやりたい。

つかんだぞ

室 内 の 遊 び

授業の一環として，教室で「ごっこ遊び」をやると，とても熱心にやるこどもと，あまり乗気でない子がいる．皆が面白そうに遊んでいるのをぼんやり見ているこどももいる．全部のこどもが心をうちこんで遊べるようにするのはむずかしい．休み時間の遊びでも，お手玉，まりつきなど，女の子は隅の方で遊ぶ．男の子のなかには時には大人には思いもよらぬ遊びをすることもある．２枚の板を足ですべらしながら廊下を「スキーだぞ」と女の子のなかをいばって通る子がいた．階段をジャンケンしながら上ったり，雨ふりの日は賑やかだ．

校庭の遊び

ある日、休み時間に級の三二名がどう遊ぶか観察してみた。男の子はリーダー格のこども中心に一二名が野球、三名が金棒、三名が石たたき、一人はぼんやり見ていた。女の子はこれもリーダーを中心に五人がおにごっこ、三名が金棒、二名がぶらんこ、三名が陣とりだった。このように遊びの種類もこどもの性格によりまちまちだ。皆野球を一緒にやるようにといってみたが、一時はそうしても活動的でないこどもはすぐやめてしまった。遊びのグループはいつも同じというわけではなく、その都度多少顔ぶれがかわる。校庭で一年生、特に女の子の遊ぶところはたいてい隅のほうだ。活動的な上級生が広い場所をとってしまうからである。遊びも季節によって変るが、男の子の野球、女の子のなわとび、おにごっこなどは季節による変化が少い。

遠足

はじめての遠足には、真新しいリュックサックを背負ってくるこどもが多い。なかはおにぎりとおやつ。おやつは沢山にならないように学校で制限する。一年生は歩くより遠足でたべるのがたのしみらしい。歩きながらでも「先生、おやつまだ？」とさいそくする。べんとうやおやつをたべる時は、仲のよい者が一緒になるが、一人、二人は少しはなれたところで、ぽつんと一人でたべる。途中はならべて歩かせるのが大変で、早いもの、道草をくうものができる。行く時はまだ注意すればなんとかならんで歩くが、帰りは疲れもでて、上手に歩けない。それでも、山の中のこどもだけに足は強い。遠足の帰り道で、手拭をかぶってふざけた子は、大人の真似をしたのだろう。

こどもたちが教室の掃除をするさまを見る．みんなたのしみながら仕事をしている．雑巾がけてぶつかった時にはジャンケンで譲り合うことを教えたら，とてもよろこんだ．

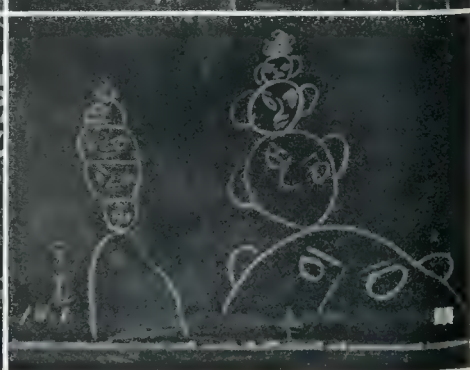
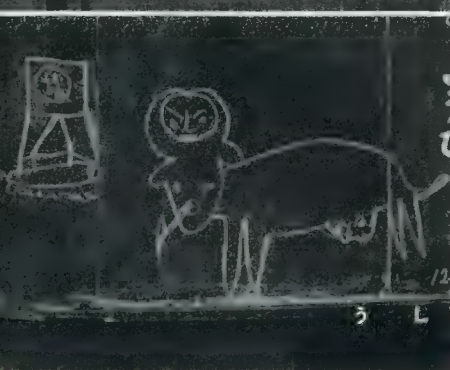
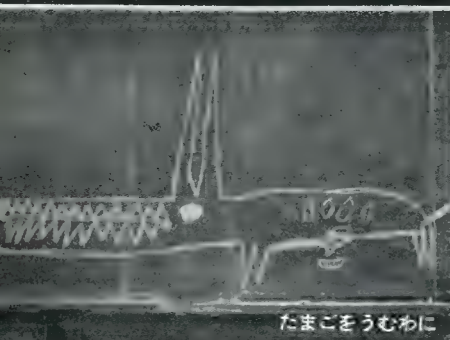
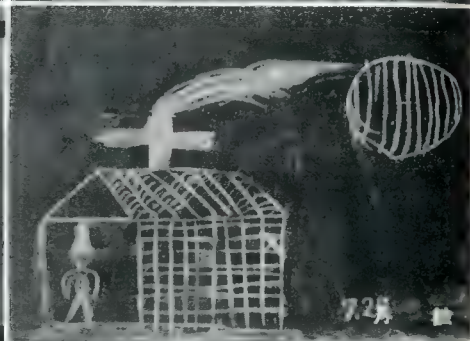
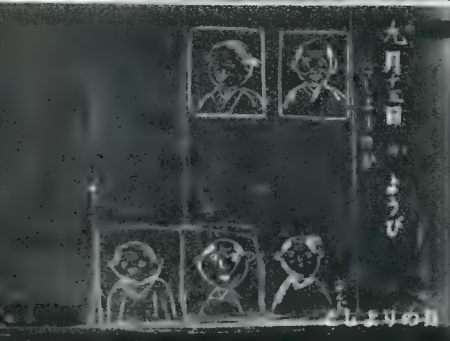
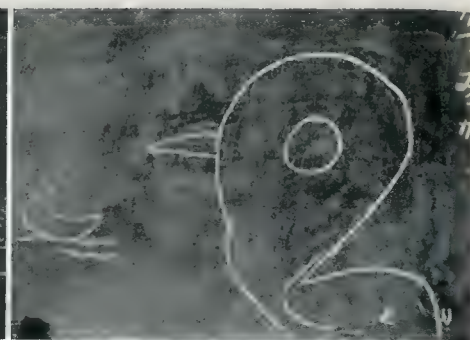
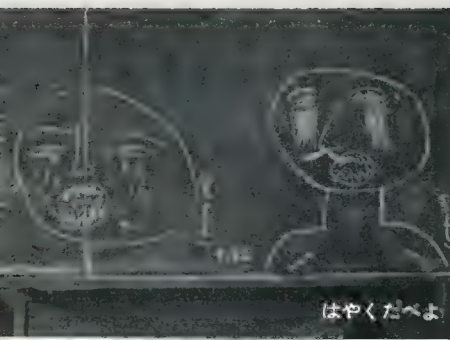
ふざけ　一年生ではまだ「仕事」と「遊び」の区別が頭のなかでついていない。真剣な顔付きのままで仕事をしつづけることが比較的困難のようだ。仕事をするのがいやというのではない。こどもの生活感情のつぼにはまった条件でならむしろ仕事も大好きである。仲間とゲラゲラ笑い合える機会が途中途中で許されるような自由な雰囲気のなかでは、長くかかる仕事もけっこう積極的に押しすすめられる。ある程度のふざけも仕事の途中での自然発生的な疲労の恢復法の一つであることもあり、また、ある場合にはこどもたちが仲間と一緒に仕事をするよろこびの表現であることが多い。このようなことをあたたかく認めてやることが必要のようだ。

はやくたべよ

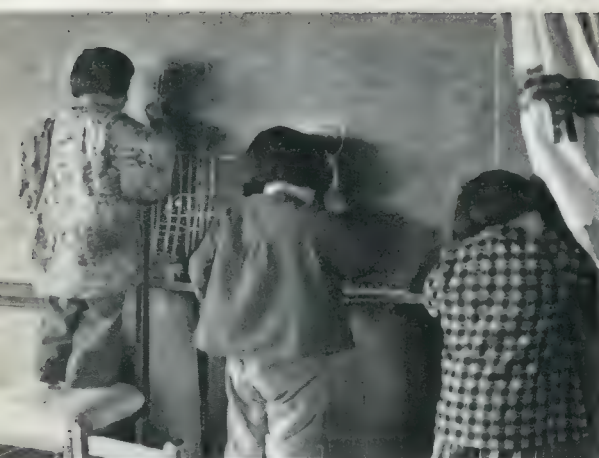
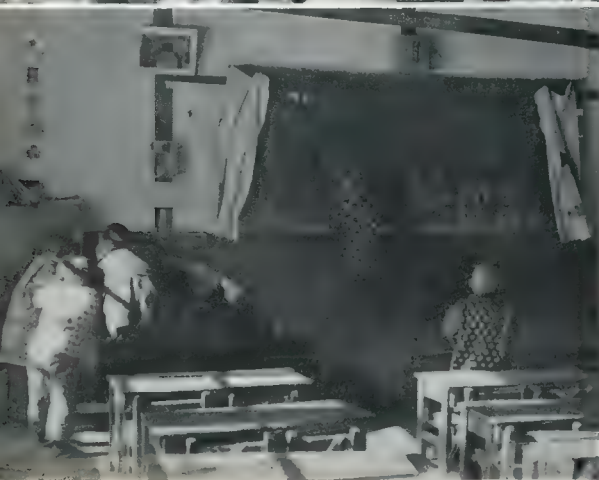
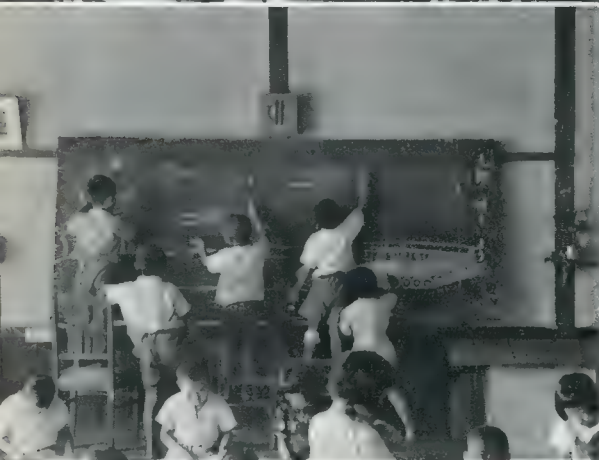
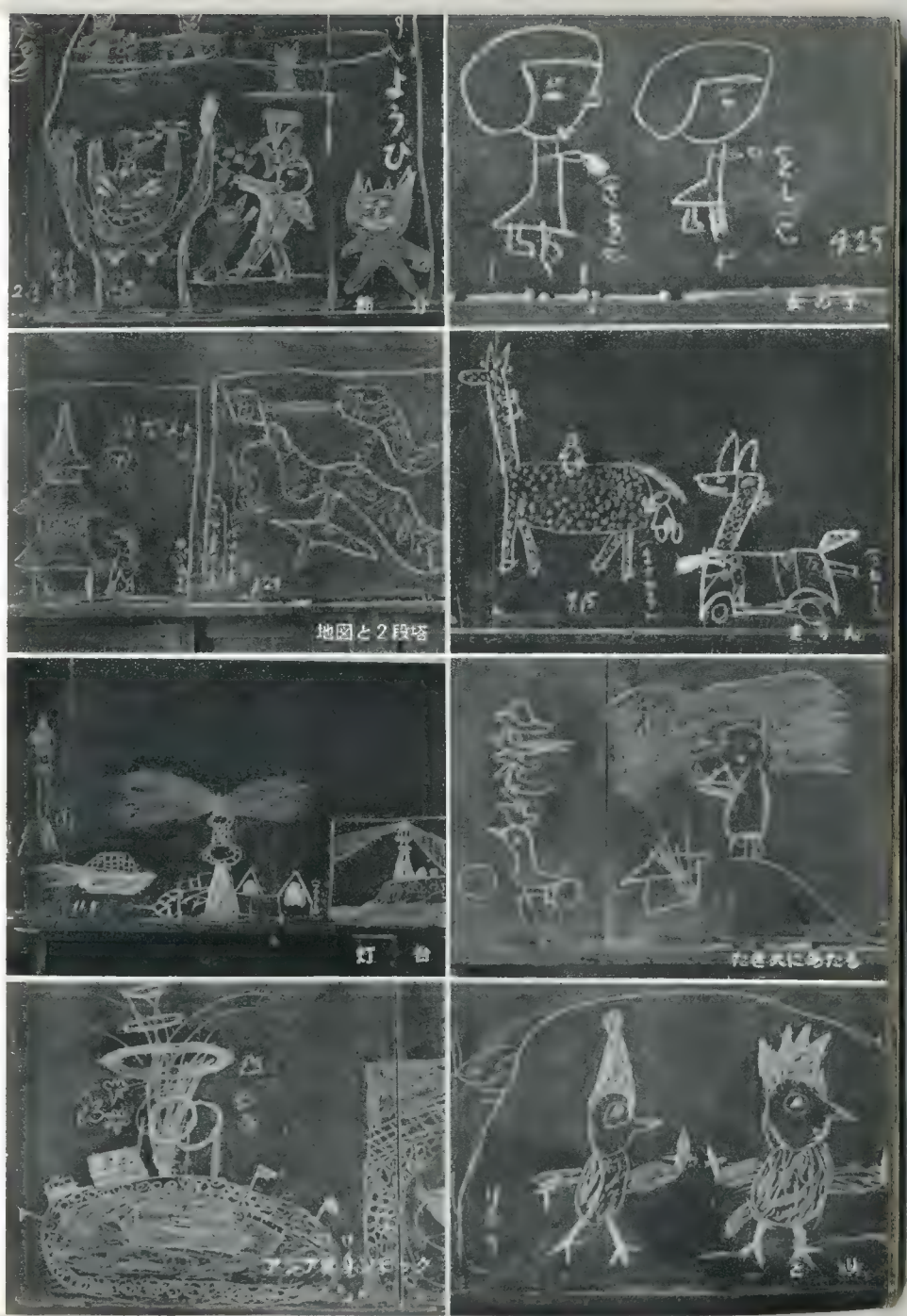
としよりの日

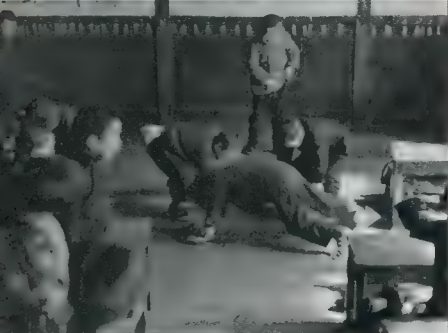
たまごをうむわに

穴から出るまむし

う し

「とり」誰がかいたか不明だった.「月蝕」かけるのを線で表している.「へび」冬眠明けや銭型の模様を話した直後.「頭」意味はないそうだ.「はやくたべよ」運動会の練習が長びいた時，不満の爆発.「としよりの日」上の絵は例画.「うし」角を丸く描いたら目鼻を入れたくなった. 漫画への芽生え.

黒　板　絵

こどもは二歳頃から色のつくものを持たせるとなにか描く。それが少し大きくなると、クレオンを持ってふすまでもかべでもかまわずに描く。畳の上にまで描きまくって親たちを手こずらす。学校へ来てからはそれが黒板に向けられる。入学後間もない四月三日、こどもの帰ったあとに黒板一ぱいの大きな鳥が描いてあった。これは面白いと思い、その後は面白そうな絵は写真にとっておくことにした。こどもたちにも黒板に描きたいものは描いていいといっておいた。その結果は、八月頃まではあまり面白い絵もなかったが、九月頃からは数も多くなり、内容も豊かになってきた。

「女の子」女の子の描く絵には動きのない概念的なものが多い.「きりん」童話風なもの.「たき火」色が美しかった.「とり」擬人化したもの.「節分」豆をまく子.にげる鬼.空から落下傘で応援.「地図」そらで描いた日本.「2段塔」新しく造ったことば.「灯台」記念日に.「オリンピック」上は花火.

天気の良い日は外で遊ぶから、黒板絵は雨の日とか、校庭がぬかって遊べない冬の日に多く描く。よく描く子は級の約三分の一ぐらいで、男児が多く、女児は数も少いしあまり面白い絵もできなかった。わずかの休み時間や朝始業前に教授用の黒板に描くのだが、描き切れない時は皆で待ってやったり、次の休み時間まで消さずにおいたりした。黒板絵は画用紙に描くのとちがって直せるという安心からだろうか、大胆なのびのびした絵が多く、こどもたちは好きなものを自分でいいと思うまで描く。紙に描く時のように先生にきくこともない。ほめられようとも思わない。ただたのしんで描く。合作も自由で、自分の描いた絵の一部に他のこどもが色を入れても怒らない。

授業中に１人のこどもが吐いた．私が外でそれを始末してるうちに再度吐いた．まわりのこどもは机を引いたが次の瞬間には2，3人がでて雑巾を持ってきてふきはじめた．それを見て何人か手伝った．あとでほめたら，うれしそうな照れくさそうな顔をした．

ほめられる

この頃コンクールばやりで次々と新しい計画が発表される。時には腕だめしに応募させることがある。こどもは自分で応募しようとは思わない。入選めあて、賞品めあてになってはいけないので、それとなく規定にあった作品を作らせて学校で送る。入選して賞状や賞品がくると朝礼のとき校長から渡す。級にくると皆で拍手して祝ってやる。ある内気なこどもは賞品に時計をもってから元気がでて成績も上った。ほめられて自分に自信をもったのであろう。

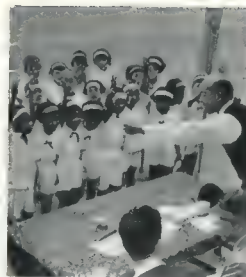
保健衛生

この頃の学校では、なにかとこどもたちに注射をする機会が多い。どんな種類のものでも注射というと、こどもたちはみんな心配する。BCGの注射でも「次の人はしなくてもいい」といって、必要のないこどもの名前を読み上げると、ワーとよろこぶ。養護の先生が注射器を手に持って、いよいよ注射にかかると、目をすえて注射器を見つめるもの、顔をそむけるものがいるが、針が入るとみんな顔に力を入れて、しかめ面をしたりしながらも我慢する。時には「いたいいたい」と声を出すこともある。終るとケロリとして「ちょっともいたくないぞ」と虚勢をはって出ていく。外で待っているこどもは、「ほんとにいたくないのかなあ」と硝子戸越しに心配顔で見ている。こんな時にはガヤガヤうるさく騒ぐ。身体検査の時どんなにして服をぬぐのかと思って見ていたら、男の子が立ったままぬぐのに対し、女の子は坐ってぬぐものが多かった。一年生の場合はただなんとなしにそうするのだが、家の人などのやることを真似するのだろう。身体検査毎にこどものからだが大きくなるのはうれしい。

べんとうを食べる

こどもたちはべんとうを学校でたべるのがたのしみだ。この時は教壇から見ていてもたのしい。こどもたちのべんとうのお菜をそれとなく見る。卵を入れてくる子、魚のおかずの子、漬物だけの子もいれば、時には梅干ばかりというのもある。幸い私のクラスでは、みんな頓着しないから有難い。しかし、べんとうのお菜が揃えられればひるめし時の教師の気苦労もなくなる。完全給食の案が持ち上っているのだが、まだ実施の運びになっていない。そこで、冬期間のみ味噌汁だけの給食を行っている。最初の一杯は平等に盛ってやるが、残った分は飲みたいものが飲むことにしている。なかには一杯ですます子もあるが、おかわりをする子が多い。一番おしまいのところに栄養が多いのだというと最後の一滴まであけてしまう。私の学校は農村にあるので、こどもたちのべんとうは米飯が多いが、最近では非農家のこどもでパンを持ってくるものが毎日何人かずつある。これを見て農家の子もパンを持っていきたくてねだってこまるという話を母親からきいた。

こどものからだ

学校ではこどものからだにたえず気をつけている．私の学校では，虫歯の予防に歯みがきの練習をさせたりまた，定期的に虫下しの薬をのませたり検便をしたりして蛔虫退治をやっている．私のクラスでも32名中蛔虫のでたものが21名にも上った．虫の数は平均1人に2匹だった．日本の農村ではどうしても蛔虫が多い．ツベルクリンの反応を見てもらうこどもの心配そうな顔．

運　動　会

運動会は学校の大きな行事で，親たちもたのしみにしている．当日こどもたちは「ボクたちいつでるの？」となんべんもきく．かけっこの早い子は得意だが，おそい子はつらい．「かけっこのない学校へ行きたい」というこどももいた．ビリでも劣等感をうえつけないようにたえず注意している．次々と各種目が行われるが，一年生には興味のないものもある．見物もせずにうしろでいたずらをしている子もある．全校体操は先生のやるのを見ながらまねするので一年生のはまちまちだ．

見　　　　　学

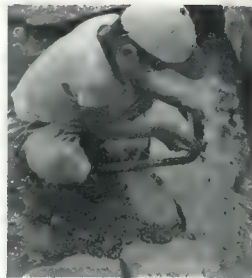
見学や観察にできるだけ校外へつれてでる．山の上から村を眺めさす．「やあ，あそこにボクの家がある」「あの雪のある山はなんちゅう山？」などとわいわいいう．稲の一生，かいこ飼い，その他産業的な面もそれぞれ適当な場所を訪ねて見せる．電話を郵便局の２階と下でかけっこさせたりする．ここでも，気の弱い女児は電話を皆の前でかけられなかった．乗物ごっこの発展としてバスに一寸のせて貰う．級の全員がのるのでみな大はしゃぎする．社会のことも一歩一歩教えこんでいく．

家庭のこどもたち

家庭の人にあって話をすると「私どもは昔もので、いまの新しい教育のことは何も知りませんもんで、先生に何もかもおまかせしますでよろしくお願いします」などとよくいわれる。これでは「こどもを学校へ委託加工に出す」といわれても仕方がない。こどもは学校から帰ると、きびしい社会の現実にもふれるし、学校をはなれている時間も長いのだから、家庭でのこどもの取扱いは重要だろう。家へ帰ったこどもは鞄を投げ出してすぐ外へとんでいき夕方まで遊びくらして帰る。学習机も七〇%ぐらいは持っているが、こどもたちは家に帰ってまで机に向って学習するのを好まない。縁側などでねそべって算数をやっているこどもをよく見かける。どこのこどもも漫画を好む。表紙がボロボロになった漫画本を貸し借りして見ている。毎月雑誌をとっているこどもも級で何人かはいるが、これも貸し借りがさかんだ。しかし、低俗な漫画本を読むことを無理に止めさせても、こどもの心に不満が残るだけだ。これに代る、興味もあり、心の糧になるようなものを与える必要がある。これには大ぜいの人の協力がいる。農村の片すみでではあるが、私もできるだけの努力をしようと思う。

放課後のこどもたち

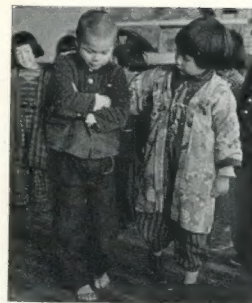
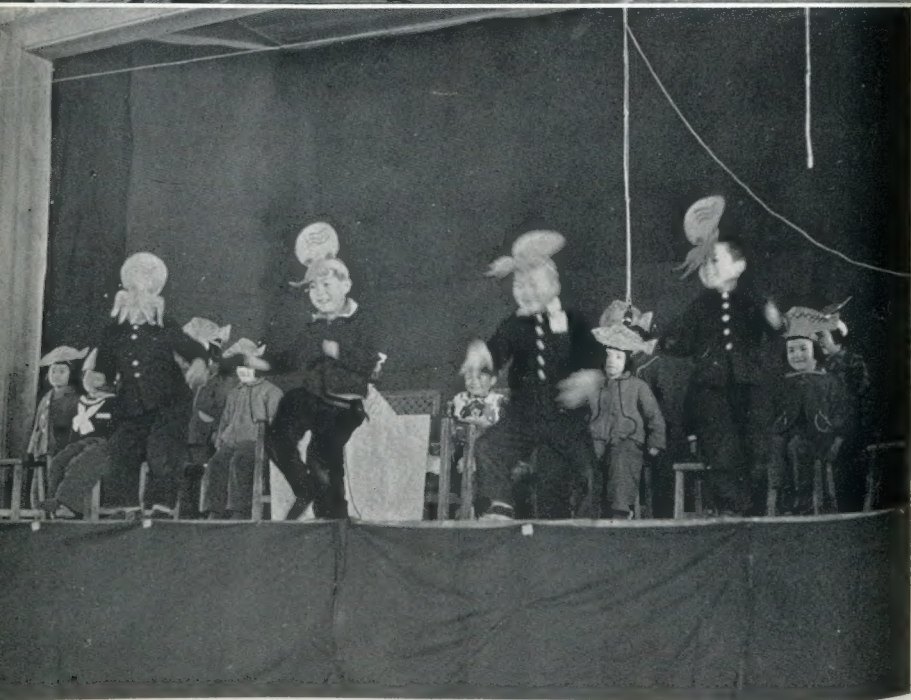
一年生にとっては学校における時間は，たとえたのしくすごしても，なにか拘束された感じがあるのだろう．下駄箱にとんでいくときのこどもの姿には，大げさに云えば，解放されたよろこびがみえる．家では学校の中でよりも勝手に振舞える．学校の帰りに道草をくうこどもをしらべてみたら，約3kmの道のりを2時間半もかかった例もあった．こんな場合はもちろん注意を与える．家で学習するときの姿勢などはあまりやかましくはいわないことにしている．こどもたちの気楽な時間なのだろうから．一年生の頃は家に帰ってもまだのんびりできるがもうすこしたつと家の仕事を手伝わなくてはならない．それが日本の農村の現実なのである．

農村では都会のこどもとちがって野山をかけまわり充分遊び場があると思われがちだが，農村でも商家の多いところでは遊び場所がなく，道路で遊ぶことが多い．こどもたちは野山で遊ぶことを好む反面，人家の近く，ことに人の通るところで好んで遊ぶ．農家の前の広い庭は恰好な遊び場だが，こどものよりつきのいい家とそうでない家がある．月曜日の朝「昨日なにして遊んだ」ときくと，角力，どじょうとり，かんけり，山へ行ったなど一つの遊びだけしか答えないこどもが多い．ただなんとなく時間をすごすのが一年生の遊びなのだ．

家での仕事

いそがしい農家でも一年生の頃はこれといった仕事をさせない．かごなど背負って畑に行ってもすぐ仕事にあきて，畑のなかをとんで歩いたり，草花などをつんで遊ぶ．農繁休みのあとで「どんなお手伝いをした」ときいてみたら，稲刈り，稲運び，麦まきなどと一かどのことをいいたてたが，やるにはやってもすぐやめてしまうのだからお手伝い遊びといった方がいいだろう．手伝いを本格的にやるのは三，四年生頃からである．非農家のこどもは，仕事といっても掃除ぐらいで，それも軒先をはく程度である．

冬　と　こ　ど　も

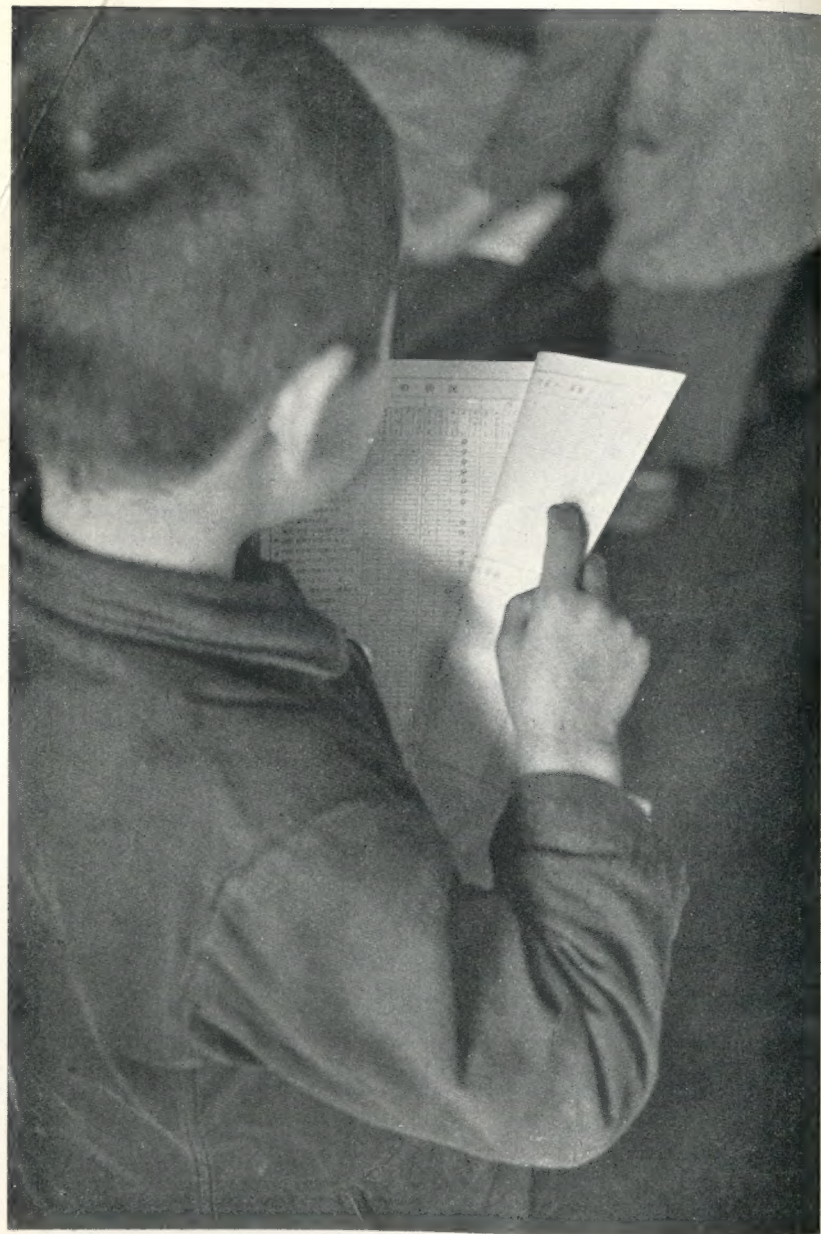
冬が近づくと，ストーブの薪の用意をする．試みに一年生にも運ばせてみたらこどもなりに最も能率のよい運び方を見つけた．やがて初雪がくる．こどもは雪が大好きだ．「雪がふってきた」と表へとび出す．雪がつもるとわざと深いところへ入る．雪合戦もよろこぶが，ただかけるだけだ．正月には学校でもカルタやすごろくなどをして遊ばせる．

学　芸　会

正月がすぎると学芸会をたのしみに待つ．簡単な劇をさせたが，出演者をきめるのが一仕事だ．出たいというもの，進めても嫌がる子があってなかなかむずかしい．背景やお面その他の小道具もできるだけこどもに作らせる．一年生では練習の時はすらすら云えたせりふが当日は人にのまれてしどろもどろすることが多い．「浦島太郎」をやったときたこ踊りを入れたら，やんやのかっさいだった．学芸会では，昼食を除いた5時間ほど一年生も静かだった．

先生とこどもたち

入学式のあとで、たいてい、一人二人の母親が残っている。「先生、うちのこどもはどうにもひっけい(内気)で、返事もろくにできんと思いますがよろしくお願いします」「うちのは耳をやんで一寸遠いので、ぼんやりしておるかしれませんが―」などとたのまれる。

一年生の担任教師は、まずこどもとその家庭を知ることからはじめる。入学の次の日からは当分の間は、できるだけこどもと一緒に帰り、家などを見てくる。四月下旬になると家庭訪問がはじまる。わずかな時間ではあるが家庭の様子の一端を知ることができる。その後も、日曜日などは自転車で部落をまわると、家庭に於けるこどもたちの状態もわかるし、家の人たちとも仕事場でこどものことを立話しすることもできる。こどもの家へ足を運べば運ぶほど家人との理解もでき、こどもへの親しみも増す。暇があるように見えて一年生の担任はあれこれと忙しい。それでも、私の学級では、家庭の経済的事情による長期欠席者はないので幸いである。場所によっては学級の二割近くまで長期にわたって欠席しているという話をきくと胸が痛む。そんなところの担任はどんな気持だろう。

学校では毎週１回職員会が行われる．行事の相談などもするが，たいていはこどもたちの学力，しつけの問題など具体的に話合う．教師自身の教養を高めるために各学校や郡市の研究会や講演会が開かれる．小学校は学級担任であらゆる学科を受持つので多方面の研究が必要で苦労する．それだけにこども一人一人に対する愛情は強く持てる．バスの停留所までこどもに送られて転任する同僚も辛いだろう．教科書の展示会にはなるべく全職員が出てあとで意見を出してきめる．しかし，いくら良くても家庭の負担が多くなるから次々と新しいものは使えない．

二年生へ

ワイワイ笑ったり泣いたりさわいでいるうちに一年はすぐたつ。新しい教科書を買う頃になると、こどもたちは二年生への夢を描く。私たち教員は過ぎ去った一年をふり返ってみて淋しくさえなる。あれも出来なかった、これも駄目だったと。こうしたらよかったのではなかったかと、反省と後悔に似た気持に襲われる。できなかったことのなかには、私も努力し、学校もPTAも一緒になって熱望しても日本の貧しさのためにできなかったこともある。こどもを愛情をもって、のびのびと育ててやることのためにはもっと社会がよくならなければといつも思う。そんななかで父兄が手べんとうでプールを作ってくれたときはうれしかった。今年はこどもたちに水泳を教えてやれるだろう。

学期末に学籍簿に成績や行動の記録を記入する時は暗い気持になる．みな同じに面倒をみてきたこどもたちを冷い符号で評価しなければならないからだ．低い評価ばかりやったこどもには，通知票を配った後，顔を合せるのもいやな気がする．こどもたちは通知票をもらうとそうっと自分だけで見ている．心配なのだろう．いじらしくなる．

入学の日

¥ 100